



杉山 貞夫 教授

杉山貞夫教授略歴・主要業績

—略 歴—

学 歴

- 1947年4月～1949年3月 兵庫県立神戸高等学校卒業
1949年4月～1950年3月 関西学院大学経済学部入学
1950年4月～1953年3月 関西学院大学文学部心理学科卒業（文学士）
1953年4月～1954年3月 関西学院大学大学院文学研究科心理学専攻中途退学
1956年9月～1957年8月 米国オハイオ州ポーリンググリーン大学大学院心理学専攻中途退学
1957年9月～1959年6月 米国ミシガン大学大学院修了（MA）
1959年6月～1961年2月 米国ミシガン大学大学院ドクターコース帰国のため中途退学
1965年4月～1966年3月 東京大学医学部医用電子研究施設研究員（内地留学）期間満了
1970年9月～1971年11月 米国ペンシルバニア州ピッツバーグ大学社会学部（招聘留学）期間満了
（Andrew Mellon Post-Doctoral Fellow）
1970年11月 東邦大学より医学博士（生理学）の学位を授与さる
1984年4月～1985年3月 関西学院大学 特別研究員期間満了

職 歴

- 1954年4月～1956年3月 国際キリスト教大学教育研究所助手（心理学、視聴覚教育学）
1956年4月～1956年8月 浪速短期大学専任講師
1956年9月～1957年8月 米国オハイオ州立ポーリンググリーン州立大学心理学科助手
1957年9月～1961年3月 米国ミシガン大学医学部眼科医学科付属視覚研究所助手のち研究員
1960年4月 関西学院大学社会学部専任講師として文部省へ申請
1961年4月～1964年3月 関西学院大学社会学部専任講師
1964年4月～1971年9月 関西学院大学社会学部助教授
1971年10月～現在 関西学院大学社会学部教授
1972年10月～1980年3月 兼職 関西学院大学総合教育研究室副室長
1973年10月～現在 関西学院大学大学院博士課程前期課程指導教授
1979年10月～現在 関西学院大学大学院博士課程後期課程指導教授
1983年10月～1984年3月 兼職 関西学院大学図書館副館長
1992年4月～現在 兼職 関西学院保健館長

—学会および社会における活動—

- 1954年～現在 日本心理学会会員
1961年～現在 日本人間工学会会員
1970年～現在 日本ME（Medical Electronics）学会会員
1970～1973年 芦屋市交通災害審議会委員
1971～1985年 日本心理学会代議員

社会学部紀要第79号

- 1971年～現在 日本人間工学会評議員・理事
- 1971年～現在 国際人間工学会連合 (International Ergonomic Association) 会員
- 1971～1990年 米国 Human Factors and Ergonomics Society 会員
- 1972～1974年 米国 Neuro-Electric Society 会員
- 1972～1982年 日本人間工学会常任理事
- 1972～1973年 兵庫県交通対策委員
- 1972～1974年 兵庫県警察本部交通部嘱託
- 1973～1978年 国際応用心理学会会員
- 1973～1982年 国際人間工学会連合 (International Ergonomics Association) 理事 (日本代表)
- 1973年～現在 日本ヒューマン・ロボテックス研究会会員
- 1976～1978年 兵庫県自動車公害専門委員会委員
- 1976～1978年 兵庫県公害対策審議会環境影響評価小委員会委員
- 1977～1990年 日本航空宇宙環境医学会会員
- 1977～1978年 デンタルシステムロジック学会理事
- 1979～1980年 運輸省女性航空管制官採用問題懇談会委員
- 1982～1985年 国際人間工学会連合会長 (President, International Ergonomics Association)
- 1983年～現在 日本航空宇宙青少年団顧問
- 1983～1984年 通産省機械化、無公害化委員会 VDT 分科会委員
- 1983～1990年 日本航空宇宙環境医学会理事
- 1984年～現在 財団法人：健康科学振興財団評議員
- 1984～1986年 Handbook of Ergonomics & Human Factors, John Wileys & Sons, Inc., U. S. A
編集顧問
- 1984～1988年 Applied Ergonomics 編集委員及び顧問 Butterworth & Ergonomic Society,
England.
- 1985～1986年 通産省機械情報局 VDT 分科会委員
- 1986～1990年 財団法人：中谷電子計測技術振興財団審査委員会委員
- 1985～1996年 日本健康科学会会員・評議員・理事
- 1985年～現在 日本医療情報学会会員
- 1988年～現在 日本 CELSS 学会会員・理事
- 1990年～現在 歯科人間工学会顧問
- 1993～1995年 運輸省航空局ヒューマンファクター委員会委員
- 1993年～現在 ㈱日本ホームヘルス機器工業会電位治療器効果検討委員会委員
- 1994～1996年 大阪科学技術センター ヘルスケア産業フォーラム学識委員
- 1995年～現在 社団法人照明学会、人間の生理・行動にたいする光放射の作用・効果にかんする研究
調査委員会委員
- 1994年～現在 通産省国際標準化機構幹事国運営委員会委員
- 1994～1995年 HCI (Human Computer Interaction) '95国際会議顧問
- 1995年～現在 産業保健人間工学会理事
- 1995～1997年 通産省工業技術院人間行動・認知評価技術委員会委員

March 1998

1996年～現在 汎太平洋産業保健環境会議理事

—著書—

- 視聴覚教育事典 (項目執筆) 明治図書 1956年
- 行動の制御とその環境 (単著) 峯書房 1968年
- 社会科学大事典 (項目執筆) 鹿島研究所出版会 1968年
- フリッカーの生理心理学的研究 (単著) 心理学モノグラフ No. 12 1970年
日本心理学会 東京大学出版会
- Control of Visual Fatigue by Means of DC & AC
Electric Fields, *Biologic & Clinical Effects of
Low Frequency Magnetic & Electric Fields*
ed. by J. D. Daurado, A. Sances, Jr., & J. H. Battocletti (分担執筆・単著) Charles C. Thomas, 1974年
Illinois, U. S. A.
- 新編健康管理シリーズ 6. 人間機械系 (分担執筆・単著) 医歯薬出版 1975年
- 歯科医療の論理と実践 人間工学からみたホームポジション (分担執筆・単著) 医歯薬出版 1976年
- 歯科のジェネラル・プラクティス
—医療におけるコミュニケーションとは— (分担執筆・単著) 医歯薬出版 1977年
- Torao Obonai, *Perception, Learning,
and Thinking: Psychophysiological Induction Theory* (共訳) Hokuseido Press, Tokyo 1977年
- 高速道路安全に関する人的要因 (共訳) 人間と技術社 1978年
- 高層建築をどう評価するか—集合住宅の管理・高層建築— (分担執筆・単著) 有斐閣 1980年
- 新版心理学事典 (項目執筆) 平凡社 1981年
- Human Problems in Standardized and Habituated
Cognitive Activity—Reading and Writing in Japanese
Language, *Human-Computer Interaction* (分担執筆・共著) Elsevier Science 1984年
Publishers, Amsterdam
- With the Trend of the Time in Human Factors,
Organizational Design and Management (分担執筆・単著) North Holland Publishing 1984年
Co., Amsterdam
- 時差克服法 (共著) 同文書院 1984年
- VDT ワークと人間 (単訳) 日本出版サービス 1987年
- ヒューマン・ファクター—新人間工学ハンドブッカー (分担執筆・共訳) 同文書院 1989年

—学術論文—

- 視聴覚教育における知覚の意味 (単著) I.C.U. 教育研究 2号 1955年
国際基督教大学教育研究所
- 映画鑑賞と青年の心的葛藤 (単著) 青年心理 1955年
金子書房
- 視知覚的見地からみた工学心理学 (著者: Paul M.Fitts) (単訳) 心理学評論 No. 3 1959年
心理学評論刊行会
- The Effect of Viewing a Pulsing Light on Human
Visual Flicker Discrimination (共著) *American Psychologists*, Vol.15, No.7 1960年
American Psychological Association
- Consanguineous Marriage in Feudal Japan (共著) *Monumenta Nipponica* Vol.15, Nos.3-4 1960年
Sophia University
- Photic Driving of the Critical Flicker Frequency (共著) *J.opt. Soc. America*, Vol.51, No.12 1961年
Optical Society of America
- On the Relationship between Variation of Human
Function and Performance in Man-Machine System (単著) *Annual Studies*, Vol.X 1961年
Kwansei Gakuin U.

社会学部紀要第79号

| | | |
|---|---|-------|
| 人間-機械系におけるコミュニケーションについて (単著) | 社会学部紀要 第3号 関西学院大学社会学部 | 1961年 |
| 人間-機械系の時間的考察 (単著) | 社会学部紀要 第5号 関西学院大学社会学部 | 1962年 |
| On the Effect of Duration of Facilitatory Photic Stimulus on Subsequent CFF Measurement (単著) | <i>Annual Studies</i> , Vol.XI Kwansei Gakuin U. | 1962年 |
| Comparison of the Influences of Visual Angle and of Variation of Pupillary Diameter seen in CFF - LDR Relation (単著) | 社会学部紀要 第8号 関西学院大学社会学部 | 1964年 |
| 人間-機械系としてみた自動車操縦における情報伝達過程 -工学心理学的推論- (単著) | 社会学部紀要 第8号(資料) 関西学院大学社会学部 | 1964年 |
| 人間工学の一問題-Psychotechnology としての視野 (単著) | 社会学部紀要 第9、10号 合併号 関西学院大学社会学部 | 1964年 |
| Psychological System Design 試論-その応用例としての道路標識の色変化および間隔変化による速度制御の実験- (単著) | 社会学部紀要 第13号 関西学院大学社会学部 | 1966年 |
| 連続変化刺激による車速制御 (単著) | 人間工学 Vol. 3, No. 1 日本人間工学会 | 1967年 |
| 交通照明の組織化について (単著) | 照明学会雑誌 Vol. 51, No. 11 日本照明学会 | 1967年 |
| 人間・機械比較論 (単著) | 人間工学 Vol. 5, No. 1 日本人間工学会 | 1968年 |
| Electric Driving of the Critical Flicker Frequency (単著) | <i>Annual Studies</i> , Vol. XXI Kwansei Gakuin U. | 1972年 |
| Human Factors Research における生態学的配慮の必要性 (単著) | 社会学部紀要 第25号 関西学院大学社会学部 | 1972年 |
| Effect of AC Electric Field Application upon Human Visual Threshold (共著) | <i>Proceedings</i> , 271 International Union of Radio Science | 1975年 |
| Ergonomics: Where Have We Been, and Where are We Going (単著) | <i>Ergonomics</i> , Vol. 19, No. 3 The Ergonomics Society | 1976年 |
| The Effect of Extreme Low Frequency Electric Fields on Human Simple Reaction Time and CFF (共著) | <i>Proceedings of Biological Effects of Electromagnetic Waves</i> International Union of Radio Science | 1977年 |
| 航空機運航の将来と人的要因 (共著) | 人間工学 Vol. 14, No. 1 日本人間工学会 | 1978年 |
| Multiple Time Zone Travel に伴う運航乗務員の生理心理的変動について (共著) | 社会学部紀要 第39号 関西学院大学社会学部 | 1979年 |
| A Pattern Design for Daily Work Schedule (単著) | <i>Annual Studies</i> , Vol. XXIX Kwansei Gakuin U. | 1980年 |
| 基本色名の概念にみられる性差、世代差および民族差に関する研究 (単著) | 社会学部紀要 第40号 関西学院大学社会学部 | 1980年 |
| 聴覚ヴィジランス・タスクの視覚トラッキング・タスクへの影響について (共著) | 社会学部紀要 第41号 関西学院大学社会学部 | 1981年 |
| Cognitive Problems in Aviation Psychology (単著) | <i>J.of UOEH</i> , Vol. 7, Supplement, University of Occupational & Environmental Health, Japan | 1985年 |
| 人間工学的課題に対する全体的視点 -組織計画と運営を中心として- (単著) | 人間工学 特集：組織設計と管理における ヒューマン・ファクター Vol. 24, No. 1 日本人間工学会 | 1988年 |

| | | |
|---|---|-------|
| 宇宙人間工学の視点 (単著) | 宇宙生物科学 Vol. 3, No. 1 宇宙生物学会 | 1989年 |
| 閉鎖生態系生命維持システムと制御生態系社会維持システム —宇宙開発技術の地上社会への転移— (単著) | 社会学部紀要 第63号 関西学院大学社会学部 | 1991年 |
| 人間工学における人間科学的背景 —近未来の技術とその認識— (単著) | 社会学部紀要 第67号 関西学院大学社会学部 | 1993年 |
| 関係論から見た人間—閉鎖型人工環境系 —心身機能の変化を中心に— (単著) | 社会学部紀要 第70号 関西学院大学社会学部 | 1994年 |
| 閉鎖型人工環境における人間 (単著) | CELSS Journal, Vol. 8, No. 1 日本 CELSS 学会 | 1995年 |

—学会発表資料等—

| | | |
|---|---|-------|
| 視覚融合現象の基礎的構造について —フリッカリング・ライトにおける明るさ、 視角の大きさ、明滅比の関係について— (単著) | 関西心理学会第53回 大会論文集 | 1953年 |
| 明滅光の CFF に及ぼす効果について (単著) | 日本心理学会第25回 大会論文集 | 1961年 |
| CFF の変動に及ぼす LDR の影響について —明るさによる瞳孔直径の変化の影響と視角 変化の影響の比較— (単著) | 日本心理学会第27回 大会発表論文集 | 1963年 |
| 「自動車操縦と人間工学」：自動車操縦における 情報伝達について (単著) | 日本応用心理学会第30回 大会発表論文抄録集 | 1963年 |
| 家庭における POWER 構造の研究 (1) —神戸市近代化研究の一つとして— (共著) | 日本心理学会第28回 大会発表論文集 | 1964年 |
| 標識の色および間隔による速度制御について (単著) | 日本人間工学会第 5 回 大会予稿集 | 1965年 |
| 標識の色変化および間隔変化による車速制御 についての研究 (単著) | 日本心理学会第30回 大会発表論文集 | 1966年 |
| 心理的組織設計としての道路環境整備について —道路標識の変化、及び間隔変化による速度 制御についての研究— (単著) | 交通科学協議会第 2 回総会 研究発表記録集、交通科学研究資料第 7 集 | 1966年 |
| 同時記録表示装置による自動車運転操作の解析と シミュレータ評価の一手法 (共著) | 日本人間工学会第11回 大会論文要約集 | 1970年 |
| フリッカーの生理心理学的研究 直接通電 刺激が CFF に与える影響について (共著) | 日本人間工学会第15回 大会発表論文集 | 1974年 |
| 色名と色の感覚的属性との対応関係 —文化差からの分析— (共著) | 日本心理学会第42回 大会論文集 | 1978年 |
| 色名と色の感覚的属性との対応関係 —性差・世代差からの分析— (共著) | 日本人間工学会第19回 大会講演論文集 | 1978年 |
| 色名と色の感覚的属性との対応関係について —色相次元からみた世代差の分析— (共著) | 日本心理学会第43回 大会発表論文集 | 1979年 |
| 色名と色の感覚的属性との対応関係 —まとめ— (共著) | 日本人間工学会第20回 大会講演論文集 | 1979年 |
| 睡眠行動にみられる周期性と時差の問題 (共著) | 日本人間工学会第20回 大会講演論文集 | 1979年 |
| コンピュータと人間工学—ヒューマン・コン ピュータ・インターフェイスをこえた問題— (単著) | 情報処理学会情報システム 研究会講演, 情報システム, 4-1 | 1985年 |

- Human Factors and Human Sciences (单著) *Proceedings, International Symposium on Human Factor in Design and Management, ODAM/IEA* 1986年
- 宇宙人間工学—その心理学的問題について— (单著) 日本宇宙生物科学会 1988年
第2回大会講演要旨

—シンポジウム講演・司会および資料等—

- 「産業心理学の理論性と実践性」 関西心理学会 1964年
(司会：甲南大 永丘智郎 第75回大会資料
パネリスト：立命館大 蓮尾千萬人、京大 伊吹山太郎、
大阪府立公衆衛生研 大谷昭、関学大 杉山貞夫)
- 「自動車安全に人間工学はどのように貢献できるか」 日本人間工学会 1968年
(司会：警視庁 梅沢勉 第9回大会資料集
パネリスト：名大 高木健太郎、関学大 杉山貞夫、
いすゞ 杉時夫、建設省 伊吹山四郎)
- 「自動車の高速化と人間工学」 日本人間工学会第10回大会 1969年
(司会：東洋工業 皆川泰久 論文要約集
パネリスト：鉄道労研 小木和孝、慶応大 佐藤武、
神大 枝村俊郎、関学大 杉山貞夫、阪大 鶴田正一)
- 「運転者・自動車・道路システム」 日本人間工学会 1972年
(司会：関学大 杉山貞夫 第13回大会論文集
パネリスト：大阪公衆衛生研 北川睦彦、千葉大 菊池安行、
豊田中央研 関戸達弥、北大 森二三男)
- 「交通安全と心理学」 日本交通科学協議会 1973年
(司会：静岡短大 浅井清朗 第9回総会研究発表資料
発表者：工業技術院 大谷明、関学大 杉山貞夫、
追手門学院大 長山泰久、東大 平尾収)
- 「環境と人間工学」 日本人間工学会 1974年
(司会：杉山貞夫 第15回大会予稿集
パネリスト：評論家 加藤秀俊、京大 佐々木綱、
京大 米山俊直、作家 小松左京)
- レジャー効果測定装置調査研究—1 (勸余暇開発センター報告書 1974年
—余暇活動を通ずる人間機能開発の科学的研究— (分担執筆)
- レジャー効果測定装置—2 (勸余暇開発センター 1974年
—余暇活動を通ずる人間機能開発の各学問分野 調査研究報告書
からの考察—人間工学 (分担執筆)
- 高齢者の生活とその環境に関する調査 白寿生科学研究所資料 1975年
—老人福祉センターの環境に関する調査報告書— (单著) 第17回日本老人社会化学会
大会講演資料
- 既知と未知の間 (勸研究開発財団 1976年
—安全からみた人間とシステムの課題— (单著) 人間の特性と産業問題特別
研究会研究資料
- 「都市交通の人間工学」 日本人間工学会 1976年
(司会：MEDIS 大島正光 第17回大会予稿集
パネリスト：東大 井口雅一、中央大 吉田正昭
鉄道労研 飯山雄次、関学大 杉山貞夫)
- 東西長距離飛行によっておきる日周リズムの変動について 日本人間工学会 1977年
—生活時間、覚醒水準、フィーリングの変動と自覚症状の 航空人間工学部会
変化について— (共著) 第24回例会講演資料
- 「教育・訓練におけるコンピュータの役割、その現状と将来」 日本応用心理学会 1979年
(司会：関学大 杉山貞夫 第46回大会発表論文集
MEDIS-DC 大島正光、日本航空 長野英麿、

March 1998

金沢工大 岡本敏雄)

| | | |
|---|---|-------|
| 運航乗務員の心理的問題 - 自信と不安 - (単著) | 日本航空宇宙学会 関西支部大会予稿集 | 1981年 |
| ヒューマン・ロボテックスを考える - ヒューマン・ロボテックスの社会的側面 - (単著) | 日本人間工学会関西支部 大会講演論文集 | 1981年 |
| Problem in Aviation Psychology (単著) | <i>Proceedings, International Symposium on Occupational Health in Aviation & Space Work, 産業医科大学</i> | 1984年 |
| 技術と人間の国際化 | 日本人間工学会設立25周年 記念講演会特別講演、日大会館 | 1985年 |
| 日本における人間工学 | 第22回国際応用心理学会大会 シンポジウム講演、京都国際会議場 | 1985年 |
| 国際的にみた組織人間工学の将来 | 日本人間工学会 ODAM 部会講演 | 1985年 |
| 海外での人間工学の動向 | 日本人間工学会 歯科人間工学部会講演 | 1985年 |
| Necessity of QC in Maintenance of Aircraft: A Case of Engine Trouble | 2nd Int. Symposium on Human Factors in Organization Design & Management, Canada 講演 | 1987年 |
| Facilities for Space Habitat | Technical Panel, Int. Space Year U.S.-Japan Pacific Conference, Hawaii 講演 | 1987年 |
| Man and the Future of Advanced Technology | International Conference of Flight Safety Foundation in Tokyo 講演 | 1987年 |
| Human Compatibility からみた作業計画試論 | 日本人間工学会 ODAM 研究会講演、 早稲田大学人間総合研究センター | 1988年 |
| 人間宇宙工学 | 日本宇宙生物学会 第2回大会講演 東京医科歯科大学 | 1988年 |
| 月面基地での人間行動学 | 有人宇宙施設技術シンポジウム講演、 学術会議講堂 | 1989年 |
| 産業医学と人間工学 | 産業医科大学産業生態研究所 大学院特別講義 | 1989年 |
| 人間工学-過去・現在・未来- | 産業医科大学医学概論 特別講義 | 1989年 |
| 月面基地と月資源開発研究会全体システム・ 計画構想分科会報告書 (分担執筆) | (財)未来工学研究所 | 1990年 |
| 月面基地と月資源開発研究会火星分科会 報告書 (分担執筆) | (財)未来工学研究所 | 1990年 |
| 有人宇宙技術と人間 | 1989年度航空宇宙学会大会講演、 砂防会館 | 1990年 |
| 人間工学とは | 産業医科大学特別講義 | 1990年 |
| 閉鎖生態系社会システム技術 | 大阪府立大学宇宙環境利用技術懇話会講演、 大阪府立大学 | 1991年 |
| 閉鎖環境とこころ | CELSS 学会総会講演 横浜市立大学 | 1990年 |

社会学部紀要第79号

| | | |
|---|--|-------|
| 閉鎖環境における健康維持 | 日本健康科学学会 第7回大会大会長講演 | 1991年 |
| 特殊環境下における人間工学の役割 | 産業医科大学産業医学基本 講座特別講義 | 1992年 |
| パイロットの航空心理と事故要因 —直接経験と間接経験の観点から— | 航空人間工学会 第62回大会講演 大阪空港ビル | 1992年 |
| 人間工学、近未来の課題（Ⅰ） | 日本人間工学会中四国支部 25周年記念大会特別講演 広島大学 | 1992年 |
| 21世紀における人間工学を語る | 日本人間工学会第34回 大会特別講演 | 1993年 |
| 産業医学と心理科学 | 産業医科大学 産業医研修センター特別講義 | 1994年 |
| こころの持ち方と生活の質 | 日本健康科学学会健康回復法 部会公開講演 神戸女子短大三宮学舎 | 1994年 |
| 閉鎖空間内の人間生活 | 通産省・大阪科学技術センター 主催非公開技術検討会講演 大阪証券会館 | 1994年 |
| Ergonomics and Cultural Factors | Plenary Address: 3rd International Conference on Occupational Ergonomics, Sheraton Walker Hill, Seoul, Korea | 1994年 |
| 人間工学・近未来の課題（Ⅱ） | 人間工学会中四国支部 第27回大会特別講演 広島大学 | 1994年 |
| 閉鎖型環境と人間 | 大阪大学医学部環境医学教室 特別講演 | 1995年 |
| 閉鎖型環境のもたらす生理・心理・社会的影響 | 人間工学4大学学生教員合同 研修会講演、産業医科大学 | 1995年 |
| 準閉鎖型環境系のもたらす心理社会的影響 | 宇宙環境利用国際シンポジウム (IN SPACE '95) 講演 砂防会館 | 1995年 |
| 人間の移動 —その本質と時代における変遷— | 国際ハイテクフォーラム大阪 '95基調講演 大阪国際交流センター | 1995年 |
| 閉鎖型人工環境が人間にストレスをあたえる —宇宙基地の心理学、閉鎖空間バイオスフェア Ⅱでおきた心の変化— | 科学雑誌ニュートン 1996年7月号 | 1996年 |
| 歯科診療と快適性 | 大阪歯科大学保存学教室 同門会講演、大阪歯科大学 | 1996年 |
| 産業保健における人間工学の進め方 —社会学の側面から— | 産業保健人間工学会 第1回大会シンポジウム講演 千葉工業大学 | 1996年 |
| 人間科学からみた健康 | 日本ホームヘルス機器工業会 主催研究会講演 | 1997年 |
| 歯科人間工学 —人と用具のチームワーク— | 歯科人間工業会・歯科道具 研究会共催大会講演 愛知学院大学歯学部 | 1997年 |
| 人間科学からみた「健康」 | 『ホームヘルス機器』 Vol. 25, No. 291 | 1997年 |

March 1998

—その他—

1. 他に、一般的な印刷物記事、および一般講演多数
2. 国際人間工学会連合会長として、人間工学の国際協力体制樹立の功により、米国南カルフォルニア大学より感謝功労賞を受けた。1986
3. 日本歯科人間工学会および日本歯科道具研究会より、学会活動に対し感謝状を受けた。1997
4. 閉鎖系生命維持システムに関する研究と CELSS 学会の運営に対する貢献により CELSS 学会より功労賞を受けた。1997

杉山貞夫教授記念号によせて

社会学部長 牧 正 英

杉山貞夫先生は、1961年4月に本大学社会学部に着任以来今日まで、36年の永きに渡って社会学部の教育や研究ならびに関西学院の発展にお尽くしになりました。また、社会学部研究科博士課程前期（修士）課程と後期（博士）課程の指導教授として大学院の指導教育や社会学研究科のありかたについて幅広く意見を述べられ、そして同研究科検討委員会の委員長として数多くの改革を提言され、その発展に努力をされました。学部ならびに大学院社会学研究科一同はこれらの点に関して深い感慨を覚えるとともに、杉山貞夫先生に対して感謝の思いに満たされております。今後は関西学院大学名誉教授として関西学院や社会学部の発展にお心をかけていただくこととなります。

杉山貞夫先生は、1953年関西学院文学部心理学科を御卒業後、同大学大学院文学研究科心理学専攻に進まれ、1954年に国際キリスト大学教育研究所助手に就任され、1956年には米国オハイオ州立ポーリンググリーン州立大学心理学科助手、1957年米国ミシガン大学医学部眼科医学科付属視覚研究所助手の後研究員となり、この間米国ミシガン大学大学院を修了、1959年に米国ミシガン大学大学院ドクターコースに進まれ、1961年に関西学院大学社会学部専任講師に就任、1964年助教授、1971年教授になりました。1965年から1966年には東京大学医学部医用電子研究施設研究員、1970年から1971年には米国ペンシルバニア州ピッツバーグ大学社会学部に招聘留学をされ、1970年には東邦大学より医学博士（生理学）の学位を授与されました。そして、関西学院大学大学院社会学研究科においては、1973年10月に大学院博士課程前期課程指導教授、1979年10月に後期課程指導教授に任用されました。

杉山貞夫先生は、学内においては1972年10月から1980年3月まで関西学院大学総合教育研究室副室長、1983年10月から1984年3月まで関西学院大学図書館副館長、そして、1992年4月からは関西学院保健館の館長として御退職の1998年3月までの6年間保健館の運営とその発展に尽くされました。

杉山貞夫先生は学会および社会においてもめざましい活躍をなさっておられます。国際人間工学会連合（International Ergonomic Association）の会長として、1986年人間工学の国際協力体制樹立の功により、米国南カルフォルニア大学より感謝功労賞をお受けになり、さらに1997年には日本歯科人間工学会および日本歯科道具研究会より、学会活動に対

し感謝状を、同年、閉鎖系生命維持システムに関する研究と CELSS 学会の運営に対する貢献により CELSS 学会より功労賞をお受けになりました。

杉山 貞夫先生の研究業績は、単著 2 をはじめ共著、単訳、共訳、分担執筆、項目執筆、をあわせると 17 以上、論文も非常に多く 34 を超え、学会発表は 18、シンポジウムでの講演や司会そしてパネリストとしては 50 回を超える活躍をされておられます。そして、*Handbook of Ergonomics & Human Factors*, John Wileys & Sons, Inc., U. S. A. (編集顧問)、*Applied Ergonomics*, Butterworth & Ergonomics Society, England (編集委員及び顧問) など重要文献の編集に寄与されました。

また、日本人間工学会の常任理事や評議員、理事として、さらに国際人間工学会連合の日本代表の理事として海外の場でその手腕を発揮されました。以下は杉山貞夫先生の幅広い学会活動、そして社会における活動の主なるものをあげておきました。

日本心理学会 (理事、元常任理事)、日本 ME (Medical Electronics) 学会会員、日本ヒューマンロボテックス研究会、日本航空宇宙環境医学会 (元理事)、デンタルシステムロジック学会 (元理事)、日本健康科学会 (元理事)、日本医療情報学会、日本 CELSS 学会 (理事)、歯科人間工学会 (顧問)、産業保健人間工学会 (理事)、米国 Human Factors and Ergonomics Society、米国 Neuro-Electric Society、国際応用心理学会、国際人間工学会連合 International Ergonomic Association (元会長)、汎太平洋産業保健人間工学会議 (理事) などで、以上のように、国内外の数多くの学会に参加して各分野の研究の推進に貢献され、それらの学会の多くにおいて所定の期間会長、理事などに選任され、組織の運営に関して重責を担われてきました。

次に、社会での活動では芦屋市交通災害審議会委員、兵庫県交通対策委員、兵庫県警察本部交通部嘱託、兵庫県自動車公害専門委員会委員、兵庫県公害対策審議会環境影響評価小委員会委員、運輸省女性航空管制官採用問題懇談会委員、運輸省航空局ヒューマンファクター委員会委員、通産省機械化、無公害化委員会 VDT 分科委員、通産省機械情報局 VDT 分科会委員、通産省国際標準化機構幹事国運営委員会委員、通産省工業技術院人間行動・認知評価技術委員会委員など国や地方自治体のさまざまな審議会、委員会の委員として貢献されました。

杉山 貞夫先生は人間工学の研究者として、またその第一人者として常に学会の先端を行かれました。これからの杉山貞夫先生のますますの御活躍と御健勝をお祈りするものがあります。最後になりましたが、杉山貞夫先生は研究においては正鵠を期することを常に指摘されておられました。この言葉は私自身にとってさらに努力をせねばならない念いでございます。